

# 不思議な光

むかし、伊勢湾や三河湾は、奥深く入りこんでいました。伊勢湾から続く知多の浦は、大高村の方から木之山村の北まで入江にしていました。三河湾にのぞむ衣ヶ浦は、横根村を海岸にしていました。

あるとき、木之山村の山の中にあやしげな光が現れました。村人たちは、

「あの光はなんだろう。ふつうじゃにやあなあ。」

「となりの名和村の漁師の人たちは、あの光を見ると海が荒れるといつとるぞ。」

「何かおそぎやあことがおこらにやええが……。」

などと、うわさしていました。そこで、村の人たちは円通寺の和尚さんに相談に行きました。

円通寺は、そのむかし、全国をめぐるて仏教を広めていた行基菩薩が、この地に来て観音さんをほり、寺を建ててお祭りしたのが、初めと伝えられています。ところが、将門の乱のとき、それを征伐に行く途中の軍団がこの辺りを通りました。この軍団の

侍は、らんぼうで勝手気ままな行動をしました。本殿を開いて観音さんを投げすてて、寺に火を放ちました。それ以来、広い境内は荒れるがままになっていました。

相談を受けた和尚さんは、さつそく不思議な光の出ている山に登りました。念仏を唱えながら光に近づいてみると、そこに、土にうもれた仏像が見えました。

「おお、これは……。行基さんのほられた観音さんではないか。おそれおいことだ。」と、和尚さんは、すぐに観音さんをしていねいに土の中から掘り出しました。さつそく和尚さんは村人の協力で寺を再建して、観音さんを手厚くお祭りしました。

行基菩薩が、円通寺を開かれたと同じころのことです。横根村の沖合の波間に、夜ごと、ごう音をたてて光る不思議な物体が現れました。

「たたりじゃ。そのうち、なんか悪



いことでも起こらにやええが……。」

と、村人たちの間にさわぎが広がりました。おそろしくて海辺に近づく人が、まったくなくなつてしまいました。

そんなある夜、光る物体の辺りから村の山に、にじのような雲がかかるのが見えました。そのとき村に住む信心深い老人が、不思議な夢を見ました。老人が、光る物体に近づいて、手を合わせてお参りすると、

「すぐに寺を建てて、われを安置せよ。」

という声が聞こえました。夢からさめた老人は、  
「おお、これは仏さんのおつげにちがいない。」

と感じて、急いで海岸へ行つてみました。するとどうでしょう。浜に、観音さんが流れ寄っていました。老人は、村の人たちの協力を得て、さっそく寺を建てて「普門寺」と名づけ、観音さんをお祭りしました。

共和町の円通寺と横根町の普門寺の縁起にかかわる話です。  
どちらも古い歴史のある寺です。今は、普門寺は知多新四国三番札所、円通寺は八十八番札所となつています。